

賛美 197 「ああ主のひとみ」

詞：井瀬利男、1926—、梅田信治、1922—1976 曲：高田早穂見、1926—

ああ主のひとみ、まなざしよ、
 きよきみまえを去りゆきし
 とめるわこうどみつめつつ、
 なげくはたれぞ、主ならずや。

- | | |
|---|--|
| 1 ああ主のひとみ、まなざしよ、
きよきみまえを去りゆきし
とめる若人 見つめつつ、
なげくはたれぞ、主ならずや。 | 3 ああ主のひとみ、まなざしよ、
うたがいまどう トマスにも、
み傷しめて「信ぜよ」と、
招くはたれぞ、主ならずや。 |
| 2 ああ主のひとみ、まなざしよ、
三たびわが主を いなみたる
よわきペトロを かえりみて、
ゆるすはたれぞ、主ならずや。 | 4 きのもきょうも かわりなく、
血しおしたたる み手をのべ、
「友よかえれ」と まねきつつ
待てるはたれぞ、主ならずや。 |

説教 「信じきれないままで」

聖餐式 (前：81-1,2・後：81-3)

賛美 81 「主の食卓を囲み」

詞：新垣王敏、1938— 曲：新垣王敏、1938—

1 主のしよくたくをかこみ、いのちのパンをいただき、
 2 主のじゅうじかをおもい、主のふかつをたたえ、
 3 主のよびかけにこたえ、主のみことばにしたがい、

すくいさかずきをのみ、主にあつてわれらはひとつ。
 主のみくにをまちのぞみ、主にあつてわれらはいきゑる。
 あいのいぶきにみたされ、主にあつてわれらはあゆむ。

(くりかえし)
 マラナ・タ、マラナ・タ、主のみくにがきますように。
 マラナ・タ、マラナ・タ、主のみくにがきますように。

- | | |
|--|--|
| 1 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、
救いのさかずきをのみ、主にあつてわれらはひとつ。
マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。
マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。 | 2 主の十字架をおもい、主の復活をたたえ、
主のみ国を待ち望み、主にあつてわれらは生きる。
マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。
マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。 |
| 3 主の呼びかけにこたえ、主のみことばに従い、
愛のいぶきに満たされ、主にあつてわれらは歩む。
マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。
マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。 | |

賛美 429 「世界のどこかで」

詞：深沢秋子、1931— 曲：高浪晋一、1941—

1 せかいのどこかで かみのあいしているひとびとが たたかい、
 2 かつてはわれらも かみがあいしているひとびとの いのちと
 きずつけあっている。にくしみの血はながれつづけて、
 ぞみをふみにじった。そのつみはなんとふかいことだろう。
 かなしみのさげびは いまもやむことがない。
 それなのにいまなお こころたかぶるわれら。
 3 主イエスのみまえで かみのあいしているひとびとに ゆるしを
 もとめ、ちかいいのろう。「かみのくださるへいわに生きる
 あたらしいへいわのたまにしてください」と。

- | | |
|--|--|
| 1 世界のどこかで
かみ あい ひとびと
神の愛している人々が
たたか 戦い、傷つけあっている。
にくしみの血は流れ続けて、
かなしみの叫びは 今も止むことがない。 | 2 かつてはわれらも
かみ あい ひとびと
神が愛している人々の
いのちと望みをふみにじった。
その罪は何と深いことだろう。
それなのに今なお 心たかぶるわれら。 |
| 3 主イエスのみ前で
かみ あい ひとびと
神の愛している人々に
ゆるしを求め、誓い、祈ろう。
「神のくださる平和に生きる
あたらしいへいわのたまにしてください」と。 | |

派遣

司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会衆 わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

アーメン アーメン アーメン

後奏

- | | |
|----|-----------|
| 司式 | 喜多村 文子 |
| 説教 | 向井 希夫 牧師 |
| 奏楽 | 高橋 孝子 |
| 助餐 | 塩冶、要田、山野上 |

※お立ちになるのが困難な方は、
座ったままで礼拝をお守り下さい。
※讚美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。